

群集ゼミ

2011年2月22日(火)18時～

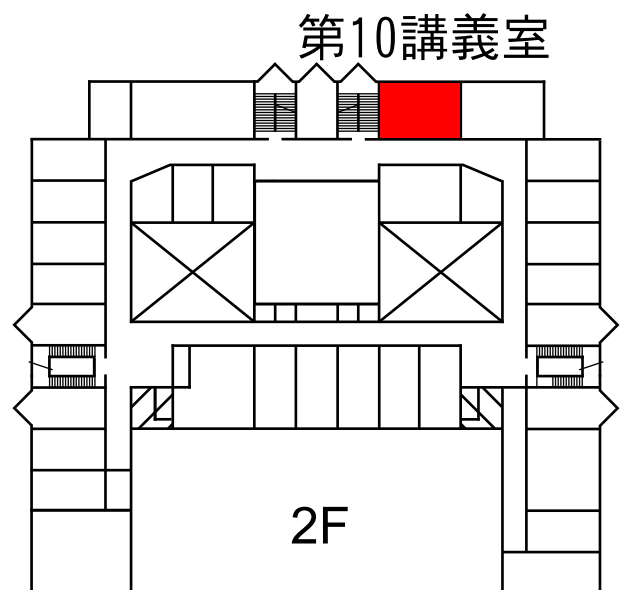
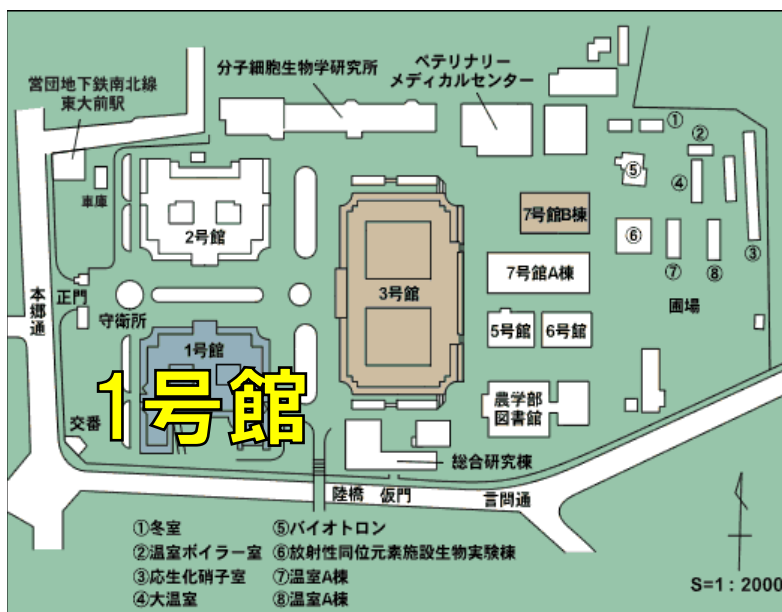
東京大学農学部 1号館2階第10講義室(いつもと異なります)

内海俊介さん(東京大学・広域システム)

植物形質の時空間変異VS植食者

植食者の個体群・群集・進化へのインパクト

同種植物であってもその形質には個体内、個体間、個体群間というさまざまな階層レベルでの変異が存在し、さらにそれには時間的な変化も伴う。従来のボトム・アップの見方においては、植物形質の違いは植食者の生存や繁殖、密度を左右する主要な要因として考えられてきた。言い換えればそれは、ある植物形質レベルによって植食者のそれらのパラメータが予測できるという考え方である。しかし野外において、植食者は個体であれ個体群であれ、常に「時空間的に変異がある植物形質の集合」と相互作用をする。そのとき、植食者のふるまいには創発性とも言えるようなパターンが生じうる。たとえば、異なる形質レベルの植物個体が環境中にあるとき、植食者個体群のサイズは各植物個体の形質レベルの効果の総和とは異なる場合があるという理論的予測がある。このような問題は、近年の生態学において盛んである「異なる階層を結び付ける試み」において重要な問題であると考えられるが、実証研究はそれほど進んでいるとは言えない。私たちはこれまで、植物の遺伝的変異や可塑性(食害応答)によって生じる形質の時空間変異が、植食者の個体群動態や群集構造、そして適応進化までどのように波及するのかについて、メカニスティックな側面からのアプローチによって取り組んできた。本講演ではそれらの研究の成果を紹介したい。



講演後、根津付近での懇親会を予定しています。

不明な点ありましたら、高木 : takagi @ es.a.u-tokyo.ac.jpまで